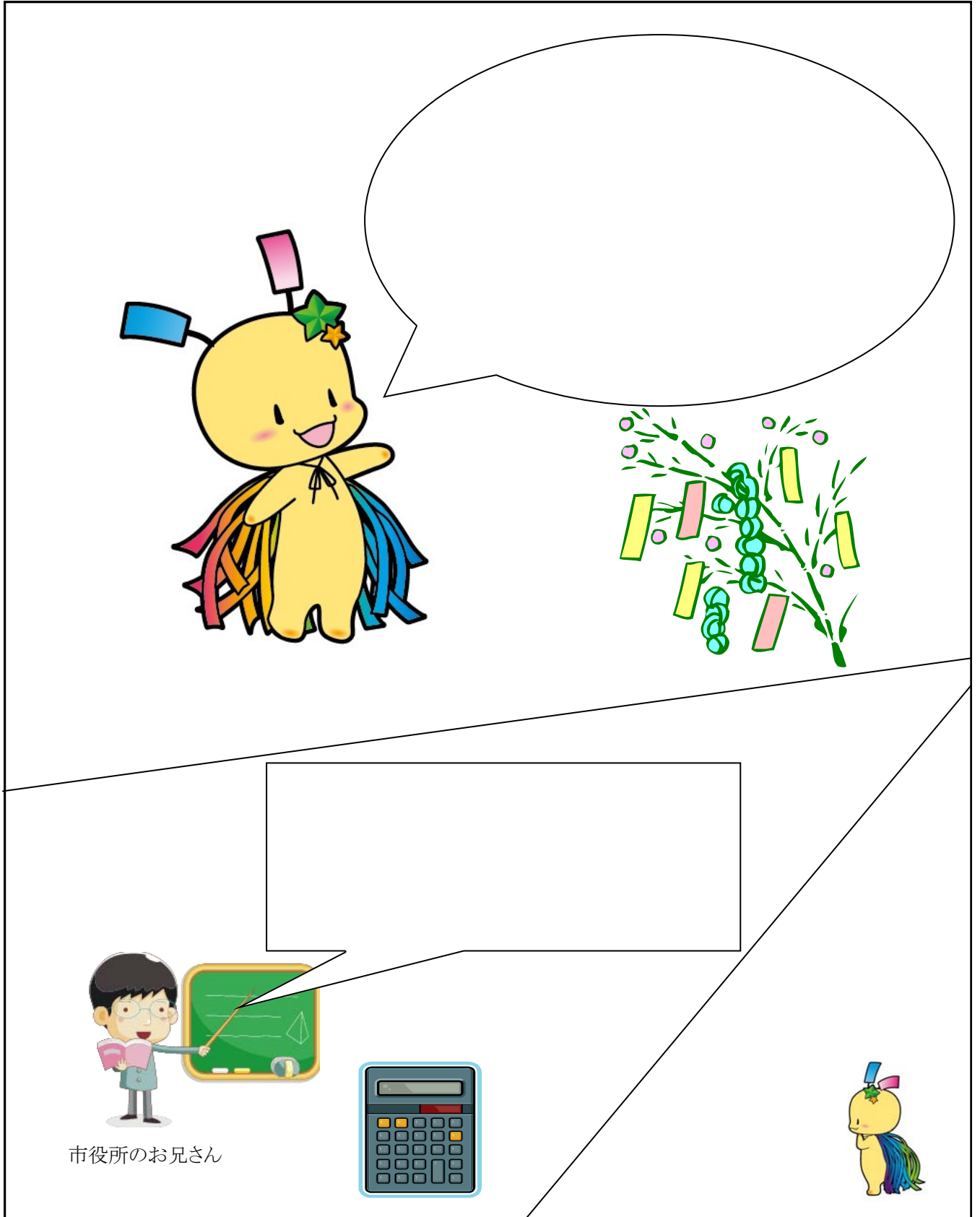
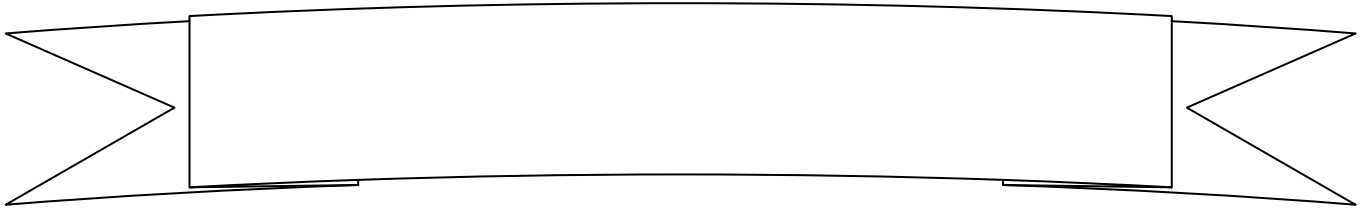


○はじめに

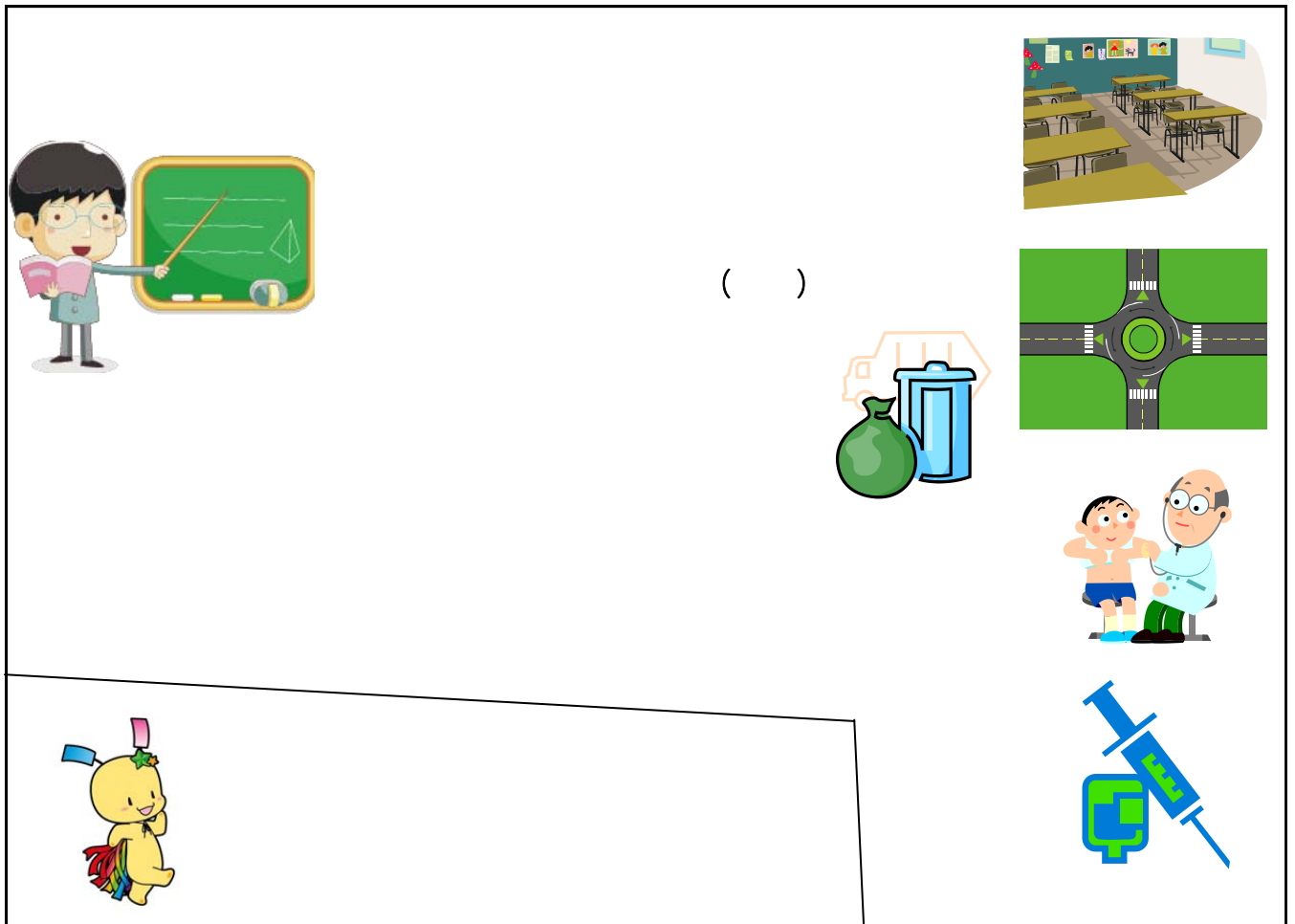
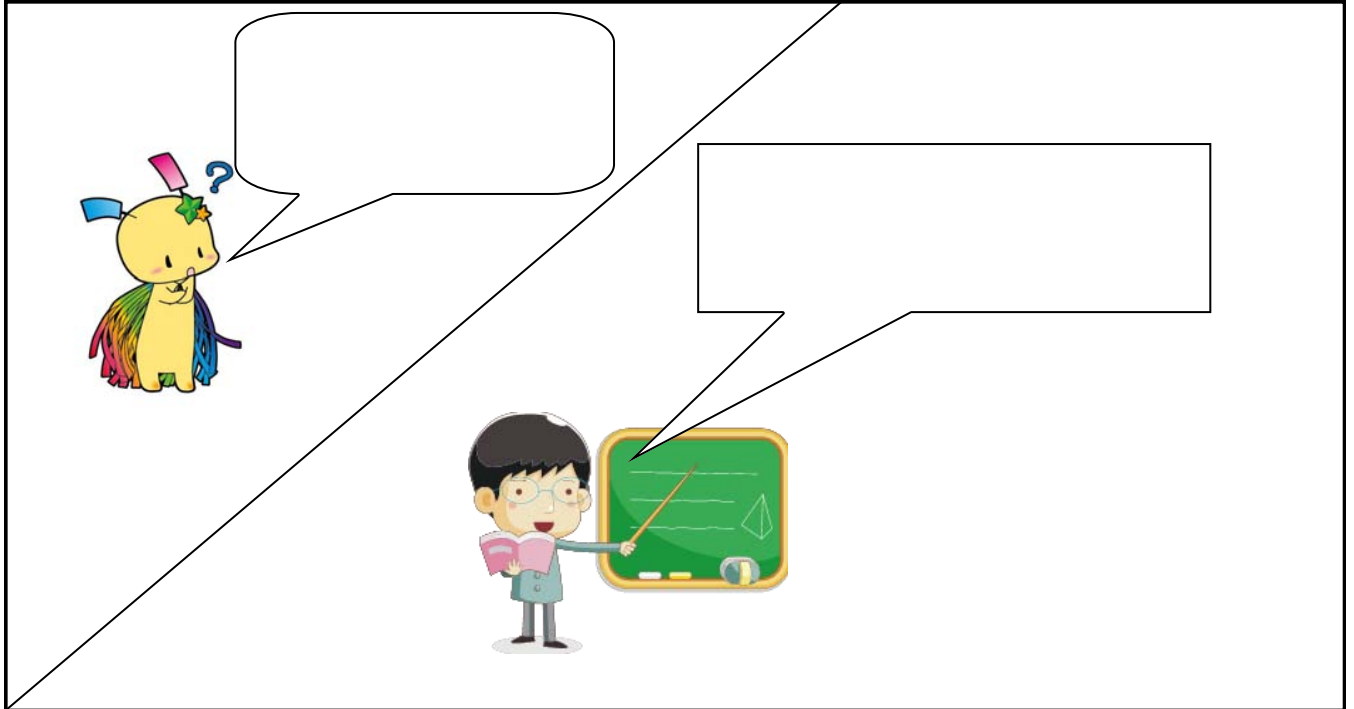
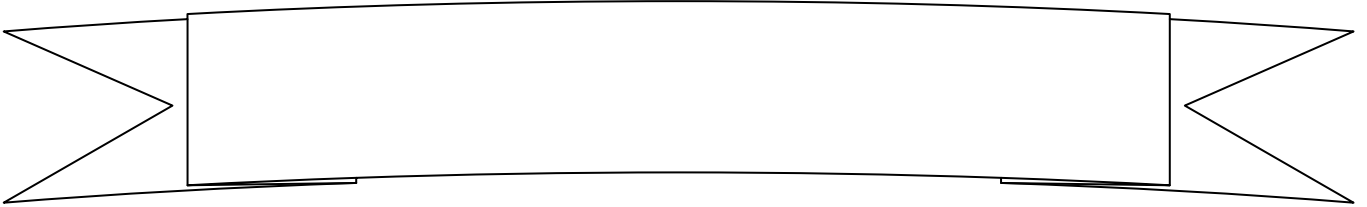
この「さやまの台所事情」は、市民の皆様などからお預かりした税金をはじめとする貴重なお金を、どのように活用していくのか、また活用したのかについて、小学生高学年の子どもたちにも分かるようにまとめ、漫画調にしたものです。

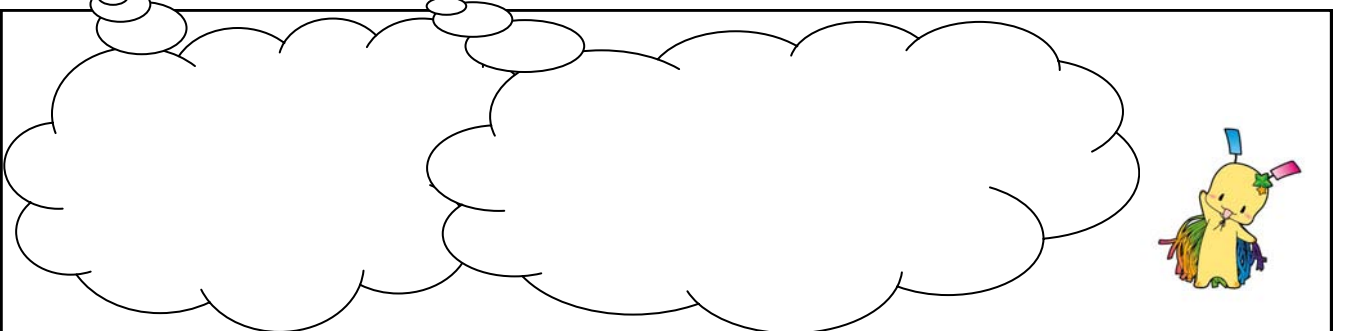
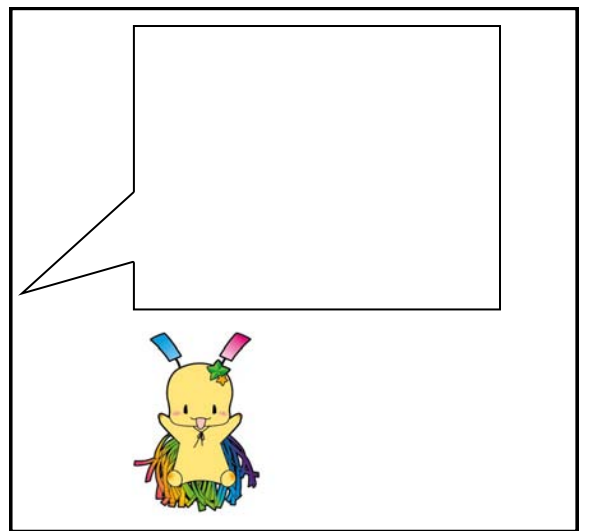
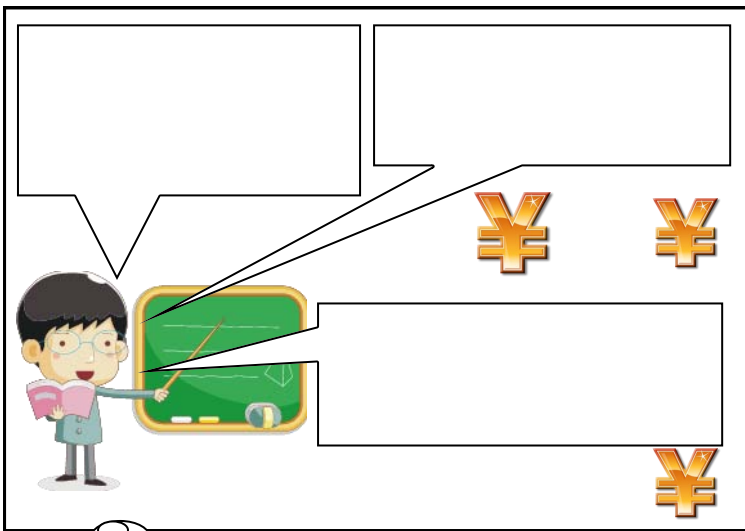
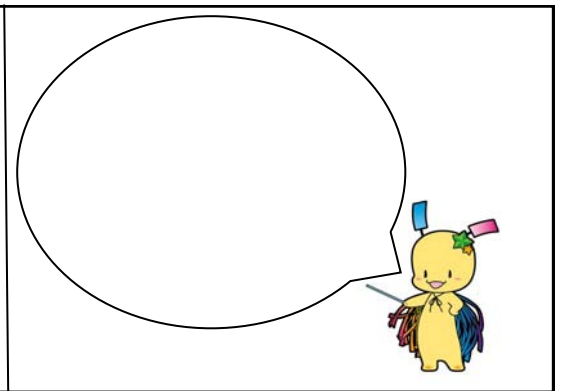
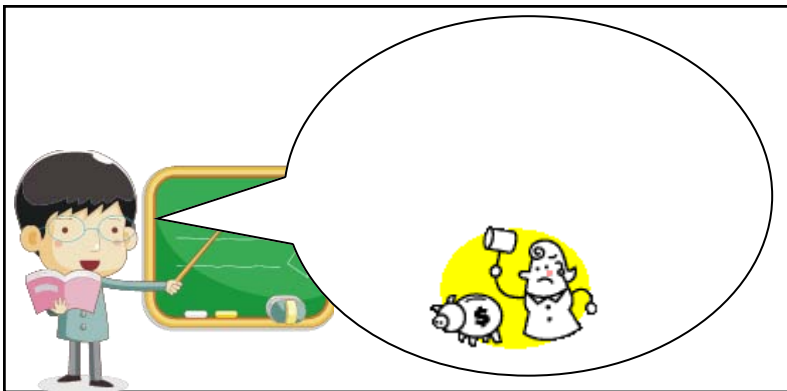
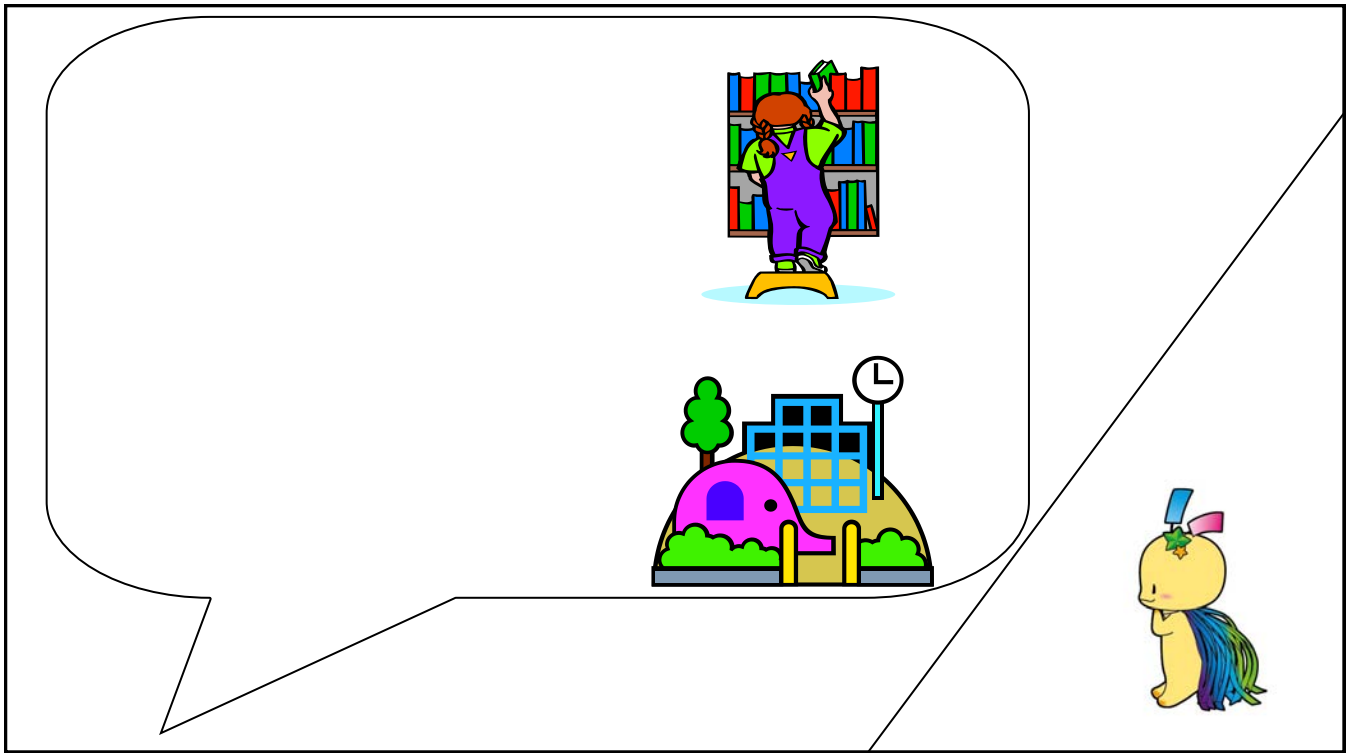
ぜひともご覧いただき、狭山市の財政に対して、少しでも興味を持ち、理解を深めていただければと思います。


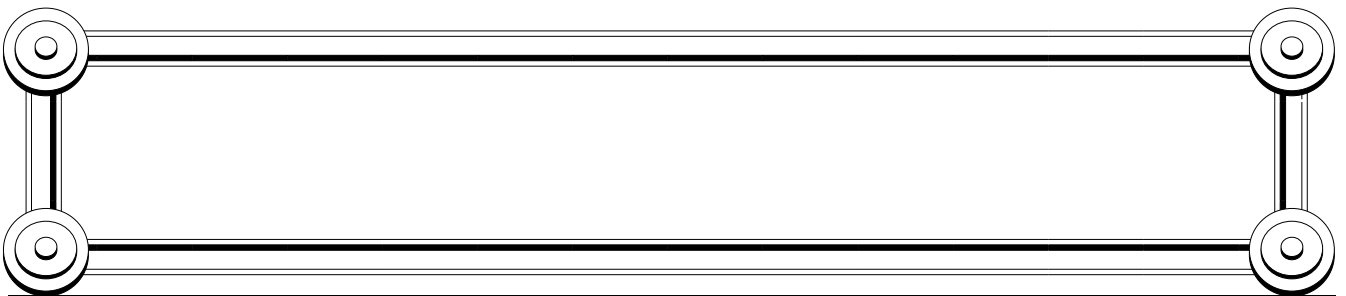
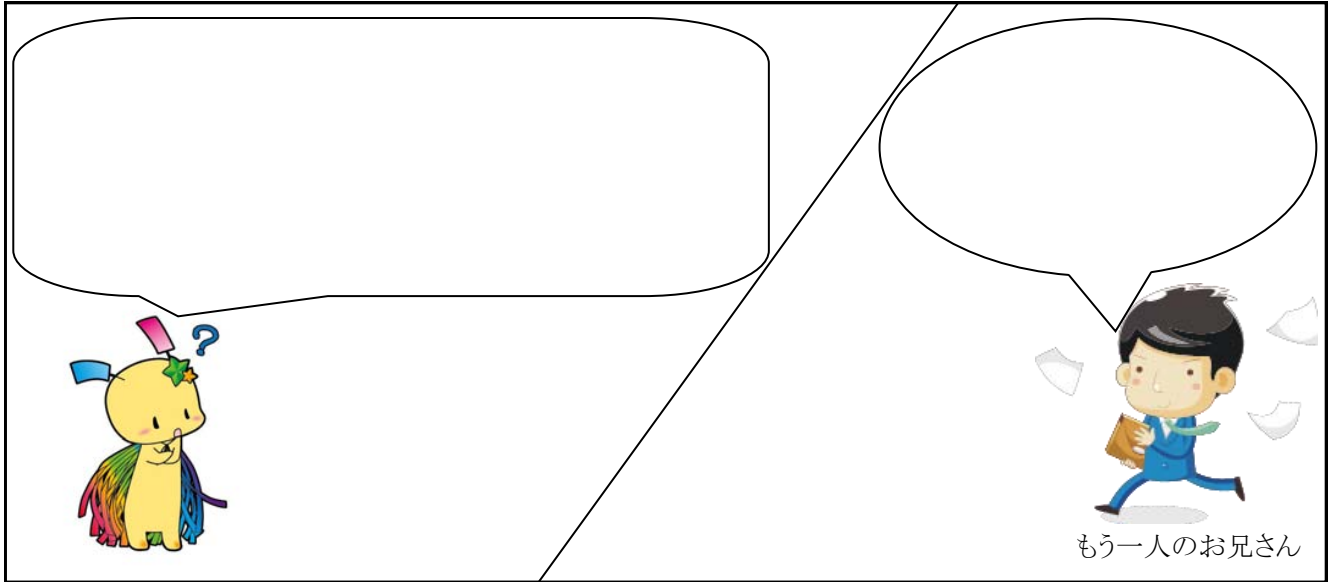
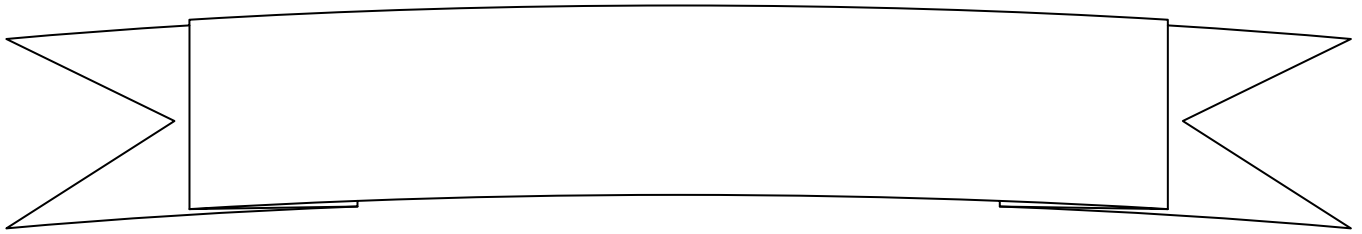
○もくじ




市役所のお兄さん






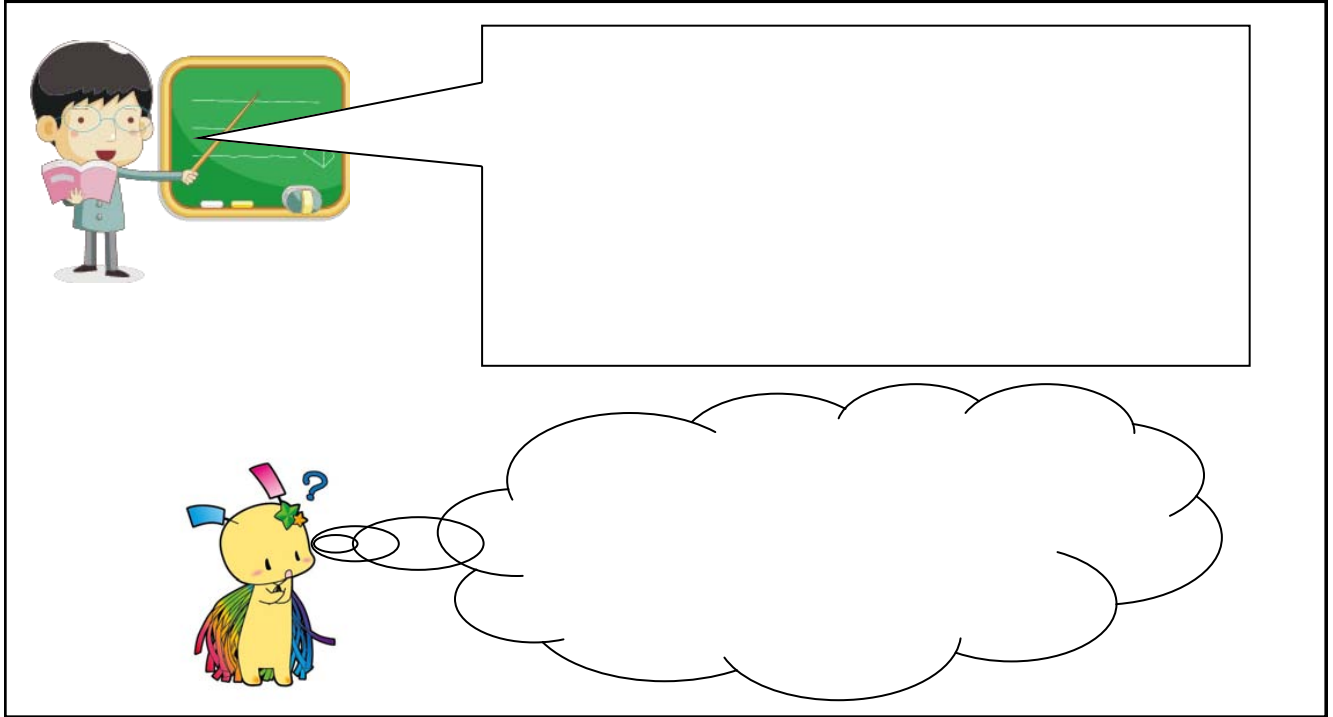
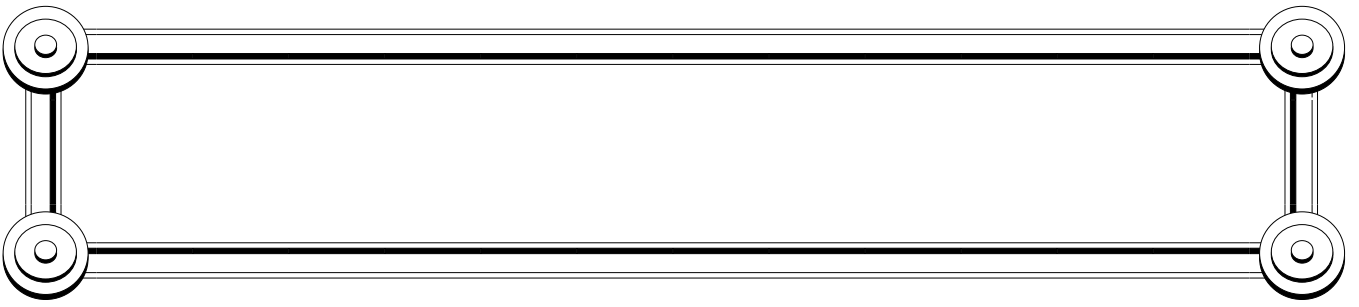


一般会計とは、教育・福祉や道路・公園の整備など生活に広くかかわる事業を行うためのお金だよ。
家計に例えると生活費に使うお金を入れておくお財布なんだ。
平成25年度の予算額は415億2,000万円だよ。



特別会計とは、特定の目的のために使うお金で、国民健康保険特別会計など4つあるんだ。一般会計と一緒ににならないように、分けて管理しているんだよ。
公営企業会計とは、独立採算性をとっている2つの会計があり、これも一般会計と分けて管理しているんだよ。





自主財源とは、お父さんやお母さんが納めている市税や、住
いんかんしょうめいしょ
 民票、印鑑証明書などを発行してもらう時に払う手数料といっ
 た、狭山市が自主的に収入することができるお金のことだよ。

267億954万円
 (64.5%)

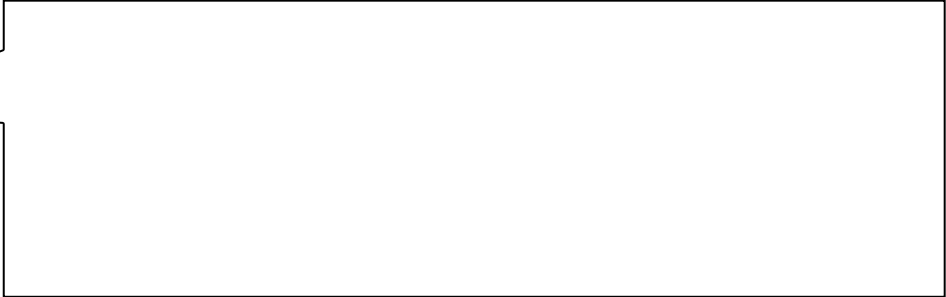
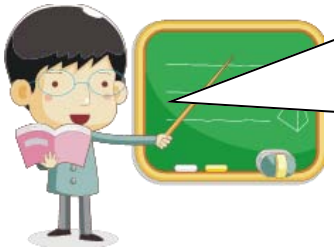
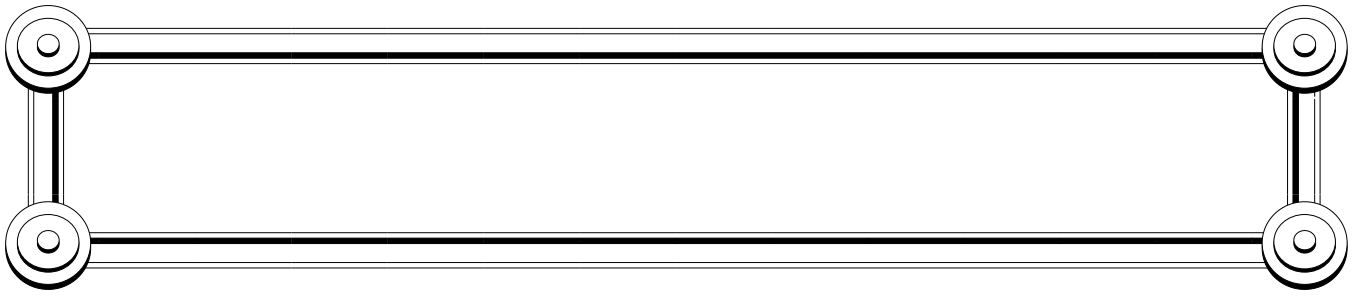
依存財源とは、事業を行う時などに国や県からもらうお金(国
 庫支出金や県支出金というよ)で、道路や施設などをつくると
 きに借りるお金(市債というよ)などもこれに当たるんだよ。

148億1,046万円
 (35.5%)


	210億3,470万円	50.7%	
	7億4,031万円	1.8%	
	49億3,453万円	12.0%	
	26億954万円	64.8%	
	52億4,445万円	12.8%	
	2億8,970万円	6.7%	
	22億1,674万円	5.3%	
	45億5,951万円	10.9%	
	148億1,046万円	35.8%	

へえ～






民生費	16億2,62万円	40.3%
総務費	55億2,96万円	13.3%
教育費	45億3,33万円	10.9%
土木費	40億4,69万円	9.8%
衛生費	38億13万円	9.2%
公債費	33億1,85万円	8.0%
消防費	20億2,96万円	4.9%
商工費	8億1,19万円	2.0%
その他	7億2,35万円	1.6%
合計	415億2,00万円	100%



みんせいひ
民生費

子育てに関することや高齢者や障害者などの福祉に使われます。




そうむひ
総務費

市の建物の管理や地域づくり、広報、防犯などのために使われます。




きょういくひ
教育費

幼稚園や小中学校、公民館や図書館、スポーツ施設等の整備や運営に使われます。




どぼくひ
土木費

道路や橋の整備や、公園を管理するためなどに使われます。




えいせいひ
衛生費

ごみ集めやごみの処理、市民が健康でいられるために使われます。




こうさいひ
公債費

大きな建物や道路などをつくるときに金融機関などから借入れたお金を返すために使われます。



しょうぼうひ
消防費

消防車や救急車を管理したり、消防署の整備や消防団の活動、防災対策などに使われます。



しょうこうひ
商工費

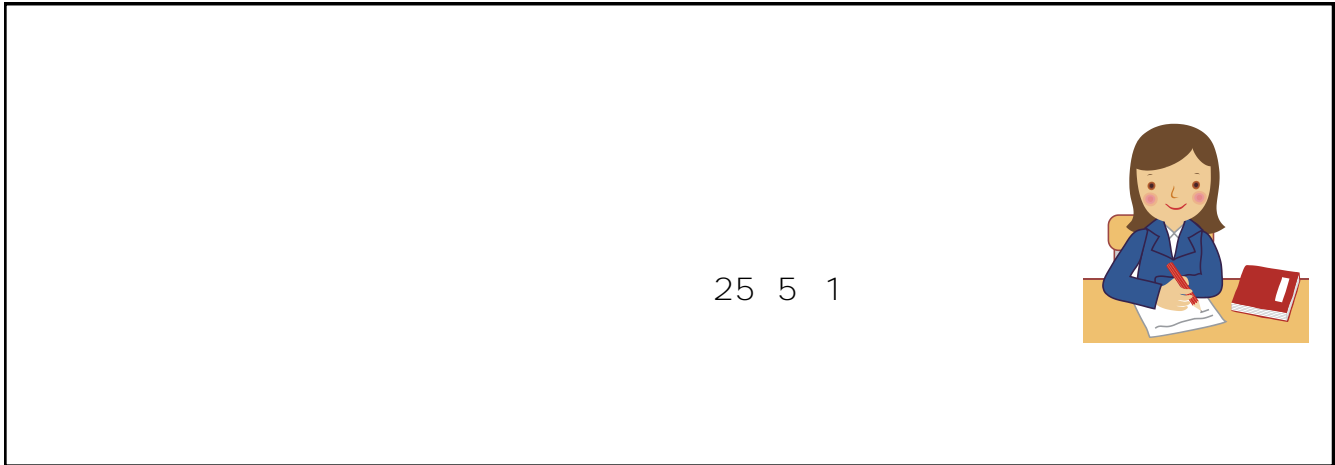
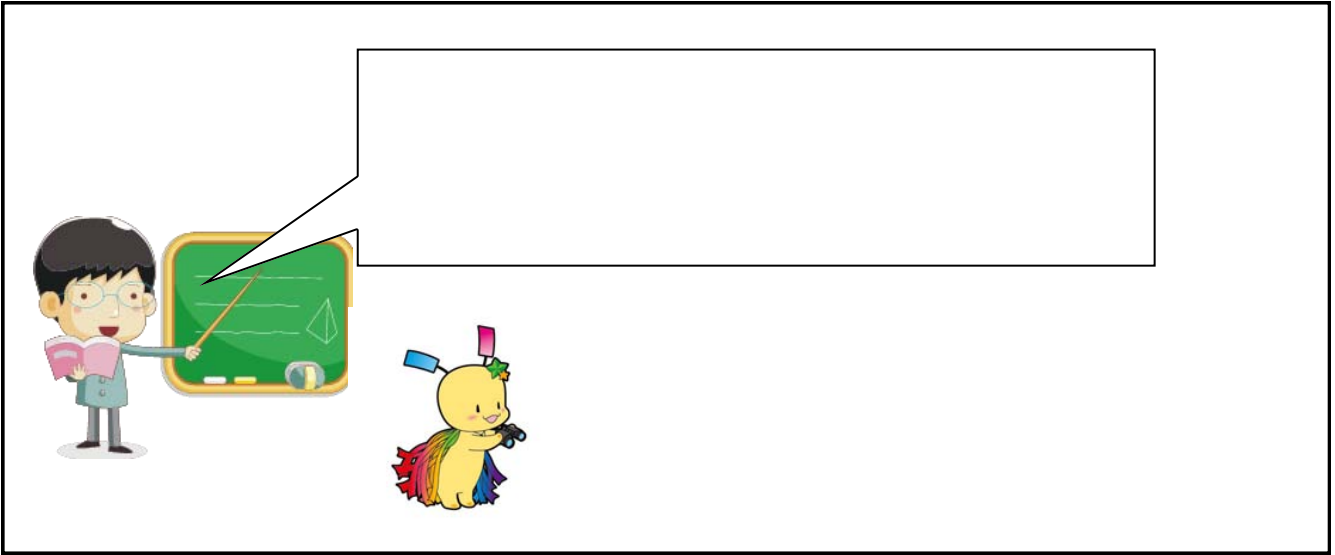
商店街や中小企業を応援したり、観光イベントなどに使われます。

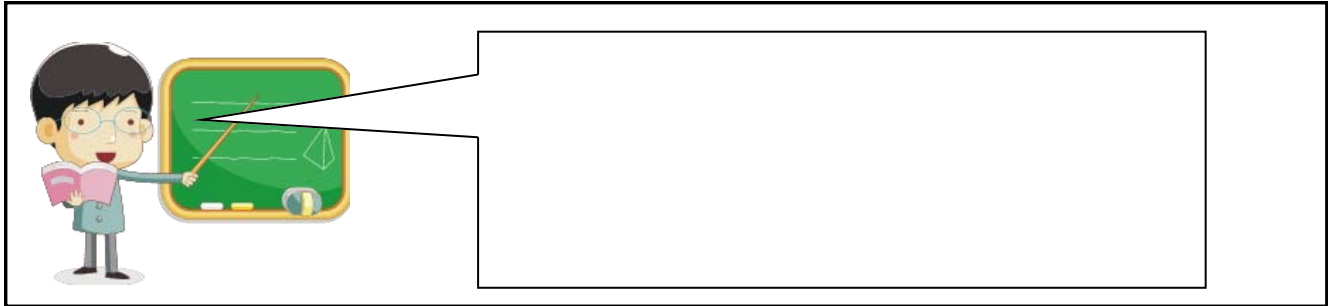
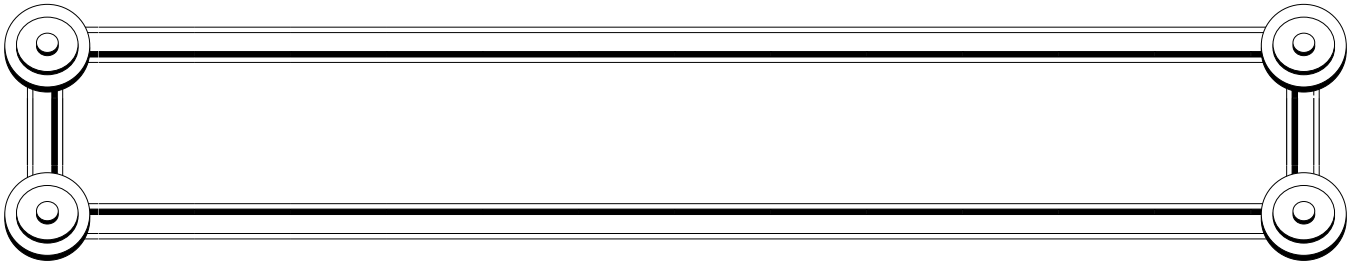
その他

市議会運営のための「議会費」や、狭山茶などを応援する「農林水産業費」、働いている人や、仕事を探している人を応援する「労働費」などがあります。

なるほどねえ〜



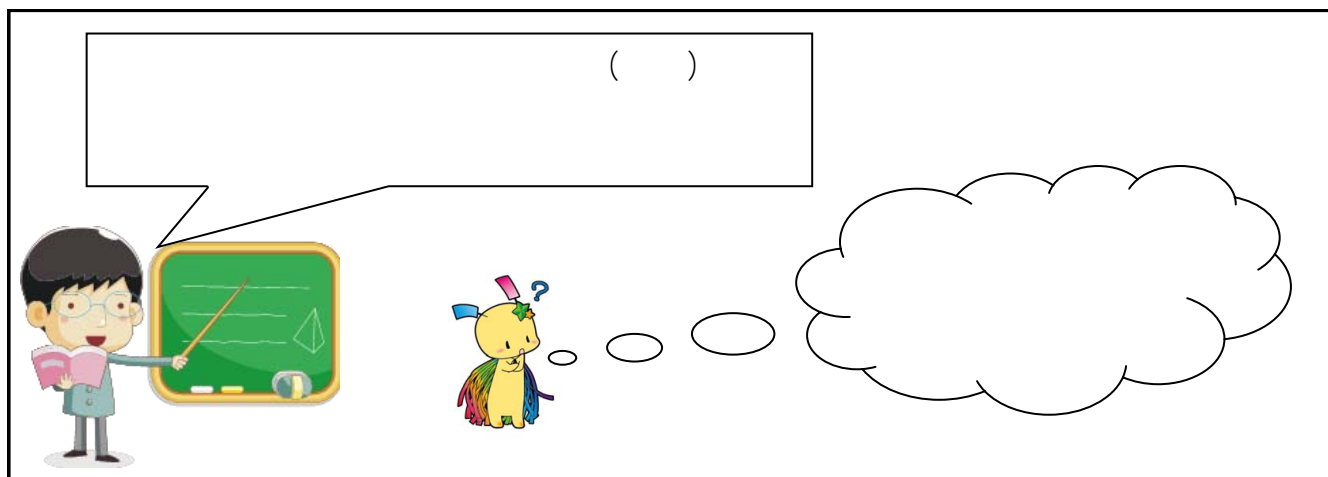
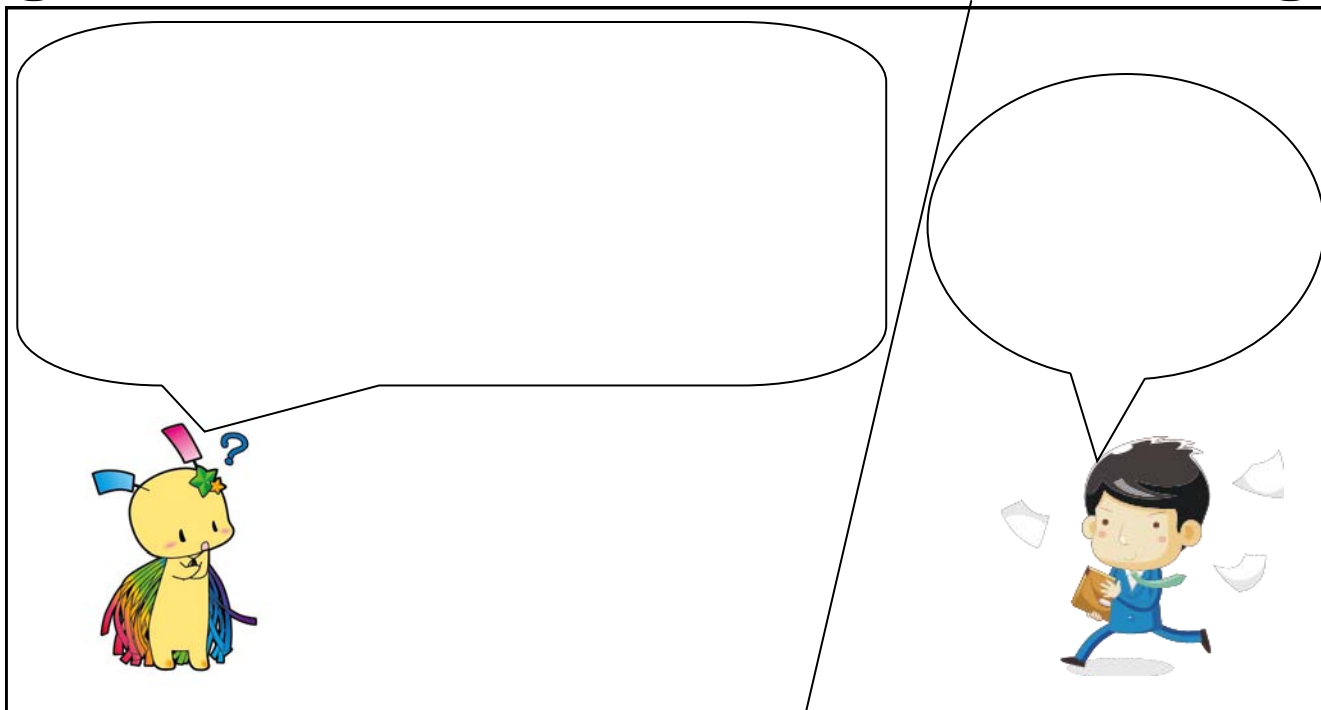
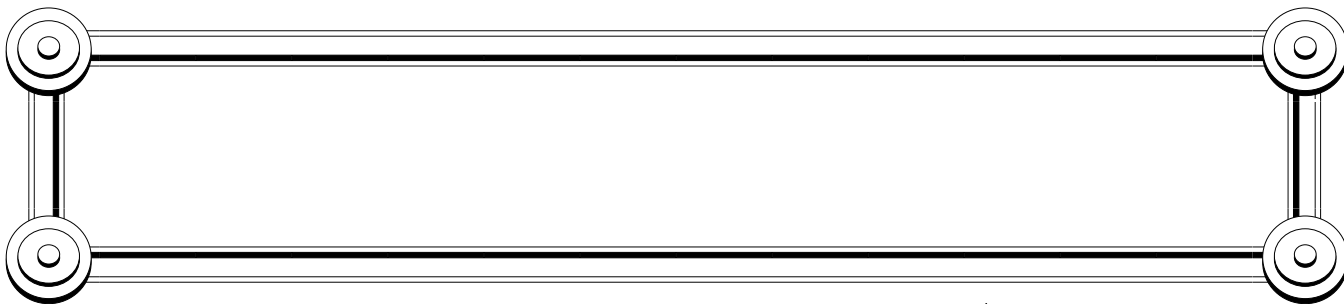




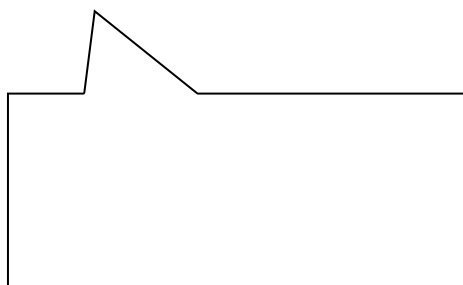
	13万5,50円		210億3,47万円
	2万2,30円		34億6,32万円
	1万4,24円	←	22億1,160万円
	7万7,43円		120億2,07万円
	1万7,97円		2億8,97万円
	26万7,46円		415億2,00万円

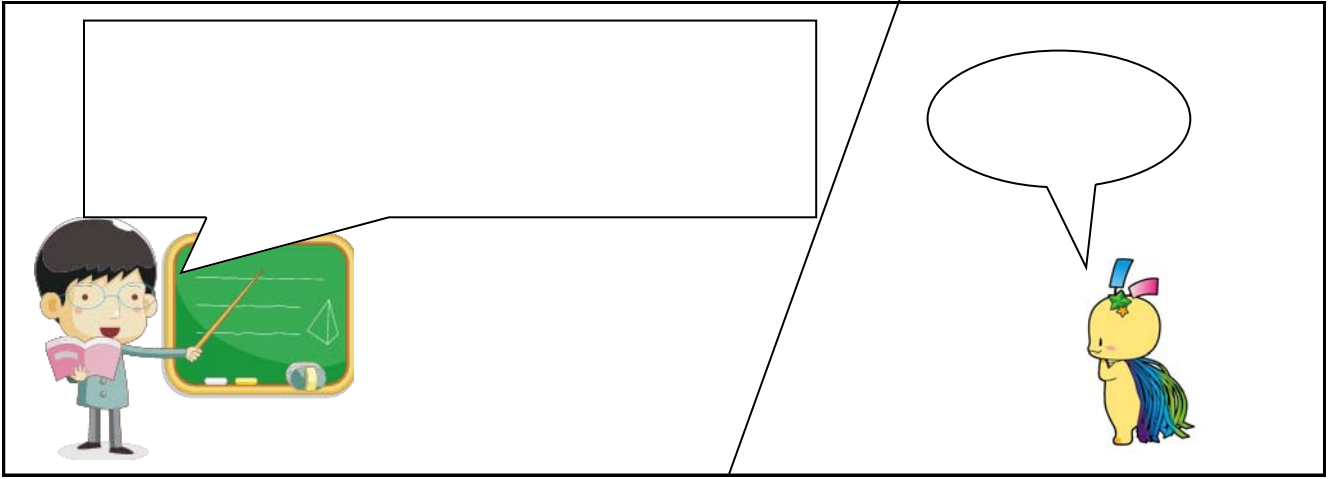
	5万4,98円		85億3,54万円
	5万8,96円		91億5,36万円
	4万9,83円		7億3,59万円
	2万1,37円	←	33億1,85万円
	6万2,75円		9億4,112万円
	1万9,53円		30億3,19万円
	2円		34万円
	26万7,46円		415億2,00万円

25 4 1 (155 237)



地方公共団体(市町村等)の会計は、今までみてきたとおり、「一般会計」と「特別会計」に区分されていますが、団体によって会計区分が異なるため、団体同士で財政の比較などをしやすくするために、一般行政部門の会計を普通会計とし、その他の会計(公営企業会計)と区別しています。



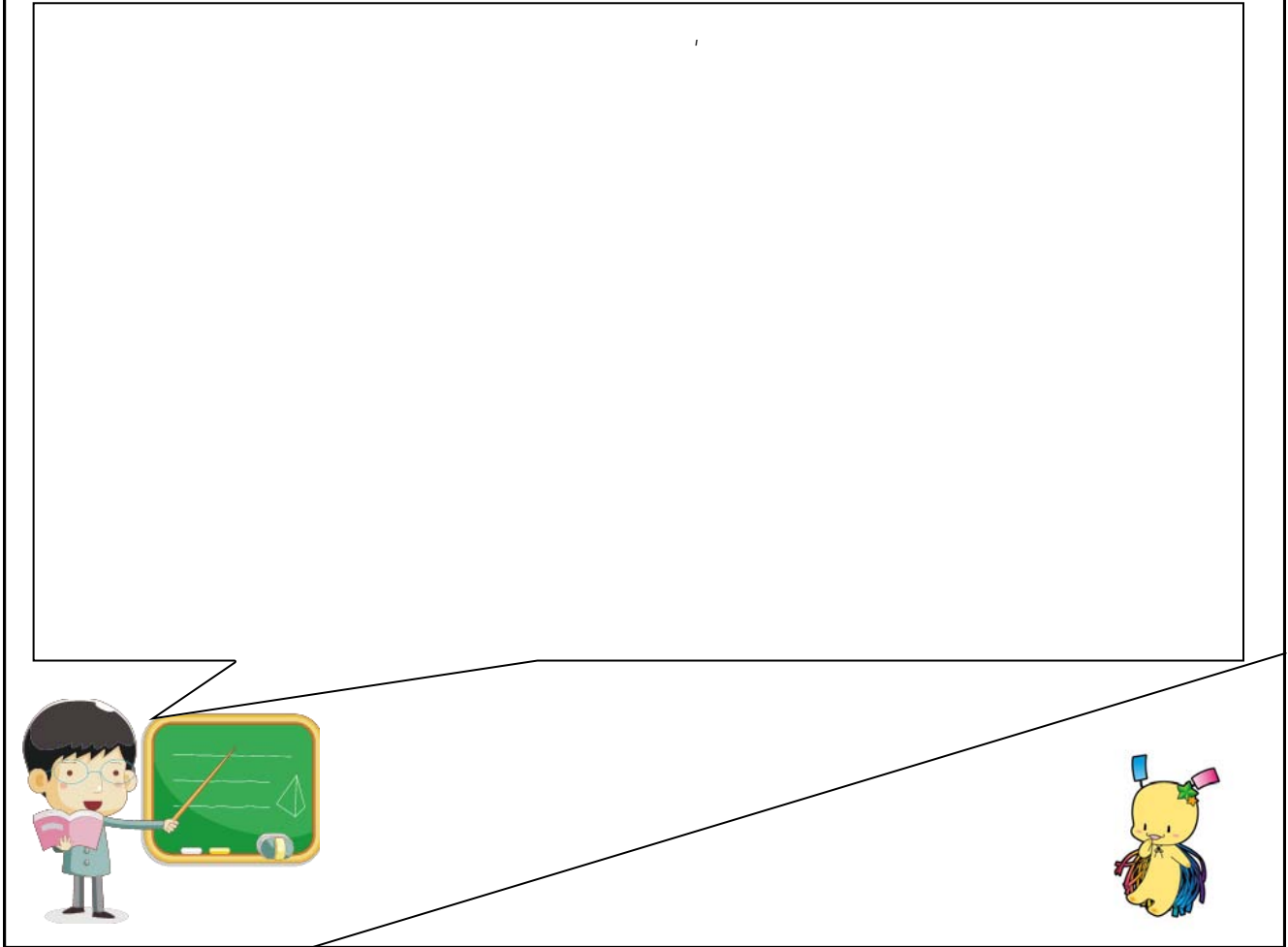


	22億2,900万円	48.8%
	73億1,413万円	15.8%
	164億8,358万円	35.8%
	46億2,671万円	100.0%

95億1,130万円 20.5%

96億200万円 20.7%

34億1,570万円 7.4%





[Empty rectangular box]



(

[Empty scroll box]

9,331万円
1,000万円



[Empty scroll box]

9,735万円

[Empty scroll box]

30億3,272万円
8,769万円



[Empty scroll box]

9,918万円



[Empty scroll box]

4億5,824万円
4億38万円



[Empty scroll box]


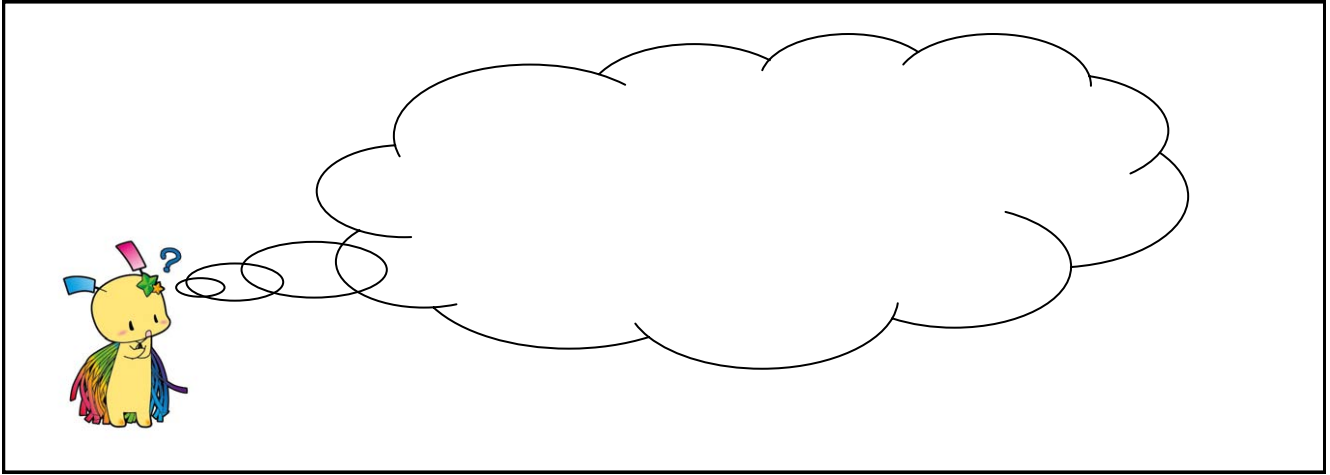
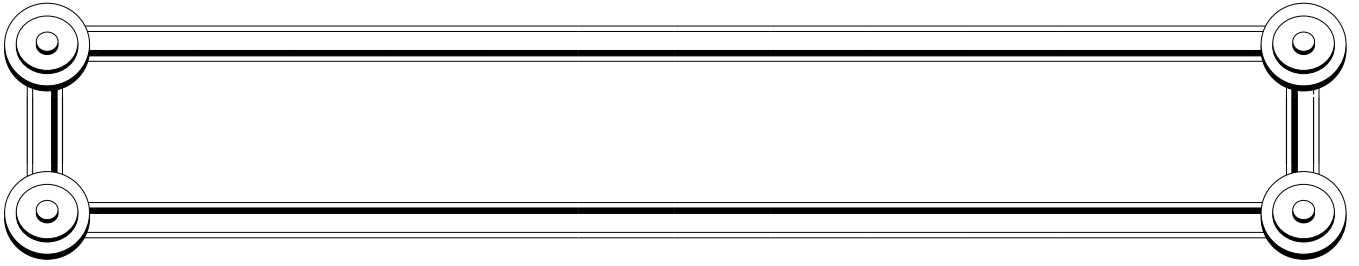
2億3,967万円



[Empty scroll box]

1,262万円





※「実質収支」=歳入総額(49億1,43万円)－歳出総額(46億2,67万円)－翌年度に繰り越すべき財源(4億9,40万円)=2億9,35万円

